

医療機器管理の将来展望

高橋 秀暢

広島大学病院 診療支援部 臨床工学部門長

安全な医療の提供、医療法改正、そして第三者評価と医療機器管理に対する要求はますます高くなっている。その中で、医療機器管理の運用…機器の所在・点検・修理・貸出情報…これらを効率的に管理するには医療機器を管理するシステムが必須となってくる。当施設では2003年より院内の医療機器にバーコードを添付し、医療機器一元管理を開始してきたが、2014年10月より更なる病院運営改善・医療安全活動に貢献すべく医療機器管理を目指し、医療機器管理システムを更新した。この経験をもとに、以下に医療機器管理を行う上でのメリットを知見として記す。

1) 医療機器管理作業の精度向上・効率化

当施設ではアルカディア・システムズ(株)CEIA システムを新しく導入しエキサイターを設置することで、自動貸出・返却による作業の簡素化、登録ミスの低減を実現した。また病棟間の貸し借りを開放することで医療機器運用の効率化を行った。

2) コストの低減

医療機器管理に関するコスト削減といえば、院内修理による修理費用のコストダウンが一般的だが、管理作業にかかる人件費(労働時間)の割合は非常に高くなっている。コストの低減を図るにはいかに人件費を圧縮できるかがポイントとなる。

3) リアルタイム性と可視性の向上による業務の高度化

AeroScout 社製 T2 タグを使用し位置情報監視システムを CEIA システムに連携させることで、各病棟の在庫状況が把握できる上に、刻々と変動する在庫の進捗状況を簡単に照会できる。さらに機器管理担当者のみではなく、他部署の関係者も権限を付与すれば自由に情報を参照することができる。

4) 医療安全対策のために貢献

特殊な医療機器に纏わる事故防止策を調査し、安全性の高い医療現場を実現した。例えば、セントラルモニターのアラームに関する調査。機器管理システムを応用した医療機器安全講習会の定期講習など。